

令和4年度大阪市イノベーション促進評議会 会議要旨

1 日時

令和4年9月2日（金曜日）15時15分～16時54分

2 場所

大阪イノベーションハブ（OIH）、及びWeb

3 出席者

北岡委員長、岡委員、フォーリー委員、山本委員

事務局（米倉部長、馬越課長、井上課長代理、林課長代理ほか）

4 議題

（1）令和3年度の主な取組みについて

（2）令和4年度の取組み方針について

5 会議要旨

議題（1）に関する事務局の説明に対し、各委員より以下のとおり意見があった。

[主な発言内容]

- ・資金調達額の目標額80億円に対し、既に達成できており、素晴らしい成果。
- ・特にシード・アーリー期のスタートアップについてはとても人材不足の状況であるので、人材確保の取り組みに力を入れてほしい。
- ・スタートアップ育成の基盤が整理されてきている。
- ・関西では大学発ベンチャーが大きな領域になっているので、そこに対する支援はこれまで以上にしてほしい。
- ・万博に関わりたいというスタートアップが非常に多い。大阪・関西のスタートアップが参加できるような形が作れればと考える。
- ・資金調達環境が厳しくなったなかで、スタートアップの次の資金調達をエコシステムがどうやって支えていくのかという正念場ではないか。
- ・万博などを機に若い人たちが集まるような施策を進めていくべき。

議題（２）に関する事務局の説明に対し、各委員より以下のとおり意見があった。

[主な発言内容]

- ・情報発信に関して、なぜ大阪が優れているかというエコシステムを見える化する発信を増やしていくとよい。
- ・どのように情報を拡散させていくのかについて分析していく必要がある。
- ・大阪は、他の地域に比べてスタートアップと中小企業とのマッチングが少ない気がしている。それを強化すればもっとM&Aや大企業との連携、大企業からの出資などにつながると思う。
- ・スタートアップからすると、大企業だけに絞らないで中小企業と一緒に大きくなっていくのはよい戦略である。
- ・スタートアップと企業の作法は全然違っている。スタートアップの技術だけでなく、そこにいる人まで含めて抱え込めるかっていう観点が大企業側にあると、マッチングできるのではないか。
- ・企業による阪大や京大発のスタートアップのM&Aが増えていると感じている。IPOの東京、M&Aの大阪のような差別化ができるのではないかと考えられる。
- ・エコシステムのブランディングに関して、大阪・関西ではディープテックやAI&ロボティクスなどどの分野のスタートアップを集中支援するか考えて行く必要があるのではないか。
- ・起業家教育で国際人材育成プログラムを入れてはどうか。